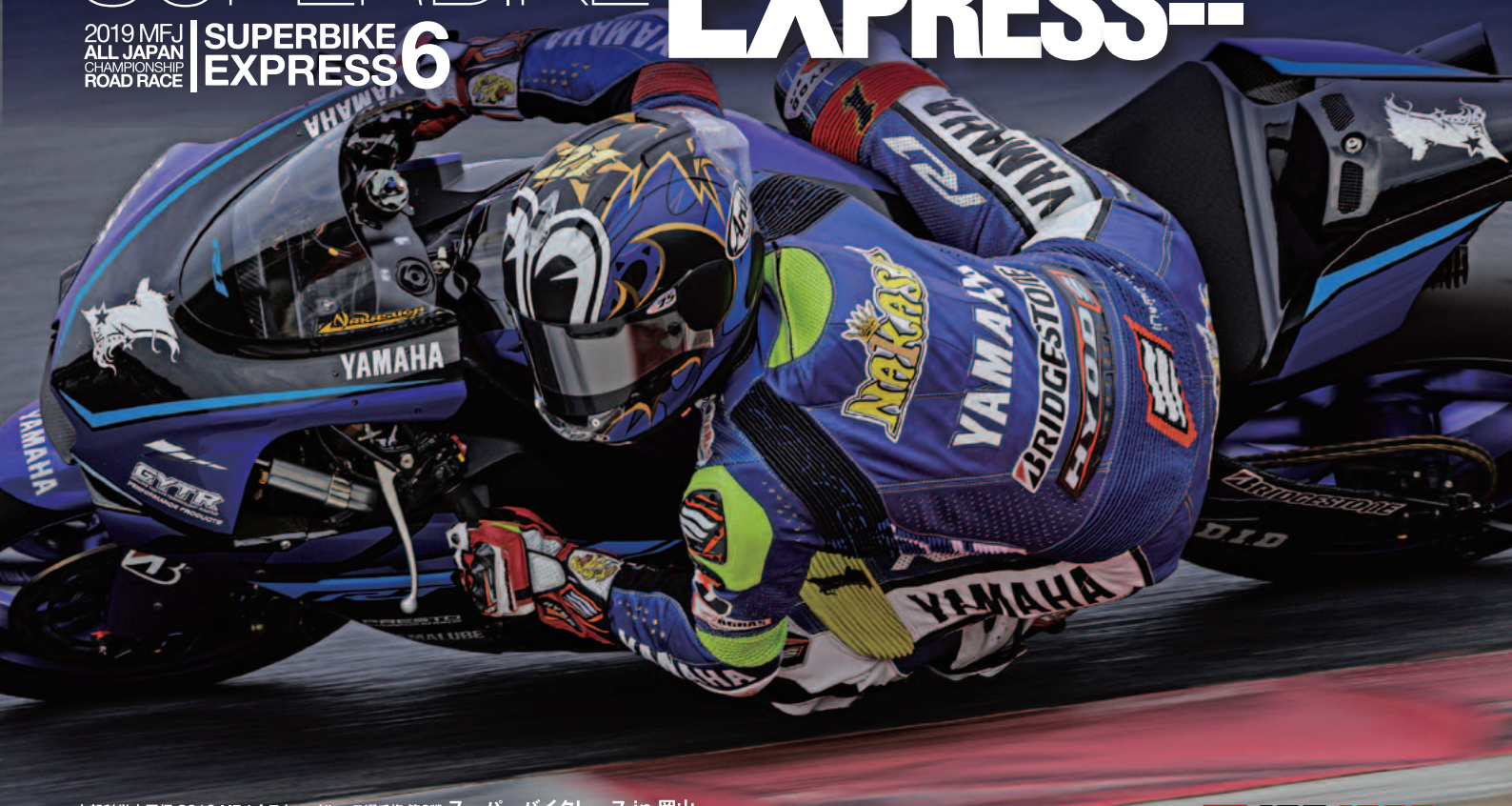


# SUPERBIKE EXPRESS--

EXtra, EXpert and EXtreme

2019 MFJ  
ALL JAPAN  
CHAMPIONSHIP  
ROAD RACE

SUPERBIKE  
EXPRESS 6



文部科学大臣杯 2019 MFJ 全日本ロードレース選手権 第6戦 スーパーバイクレース in 岡山

**SUPER BIKE RACE 8.31 SAT**  
**in OKAYAMA 9.1 SUN**

OKAYAMA  
International Circuit

JSB 1000  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 中須賀克行がコースレコードでポールポジション! 好調の水野涼は初優勝、野左根航汰は2年ぶりの優勝を狙う!! 手負いの高橋巧はエースの意地を見せられるか!?

全4クラスが勢ぞろい、今回の岡山ラウンドから本格的にシリーズ後半戦がスタートした全日本ロードレース選手権。第5戦MOTEGI2&4レースで、一足先に後半戦に突入していたJSB1000クラスは、新たな“流れ”が押し寄せていた。その中心にいるのがMuSASHi RT HARC-PROの水野涼だ。前戦からTeam HRCのエースである高橋巧と同仕様のワークスマシンが与えられ、水野自身の成長も相まって一気にトップコンテンダーの一人となってきている。MOTEGI2&4レースでは、テストで負傷した高橋に代わり絶対王者・中須賀克行とトップ争いを最終ラップまで繰り広げた。その勢いのままに、前週(8月22-23日)に行われた公開テストでは、1分27秒686をマークし、トップについた。

一方、YAMAHA FACTORY RACING TEAMの野左根航汰も水野の走りに刺激を受けている。前戦では、水野とのバトルを繰り広げている最中に転倒し悔しい思いをした。公開テスト初日には、水野がタイムを出すと、すかさずタイムを出して上回りあからさまにライバル心をむき出しにしていた。この若手2人と、これまでJSB1000クラスを牽引してきた中須賀と高橋が、どんな戦いを見せるのが、今回、そしてシリーズ後半戦の流れになるだろう。

レースウイーク初日は、雨上がりでグリップが悪い

中、野左根がトップタイム。走り始めはよく、「今シーズンで一番優勝に近いところにいる」と自信のコメントを残していた。一方、水野はテストのときのフィリングが得られず苦戦。9番手に沈んでいたが、路面コンディションが回復した土曜日には復活していた。

高橋は、そんな後輩の速さを見ながら初日は5番手。スーパーバイク世界選手権第10戦ポルトガルへの代役参戦も決まり、超ハードスケジュールの真っ直中にいた。岡山での公開テストを終えた後、すぐにポルトガルに飛び事前テスト(8月24-25日)に参加。岡山ラウンドのレースウイークの火曜日に帰国。そして今回のレース終えたらすぐにポルトガルに飛んでレースをこなすことになっている。

公式予選は、ノックアウト方式で行われQ1で中須賀、野左根、水野が1分27秒台で続き、高橋は5番手につけていた。そして10台で争われたQ2では、水野が真っ先に1分27秒台に入れる1分27秒445をマークしトップに立つ。この後、中須賀は1分27秒388を出しトップを奪うと、さらに自身の持つコースレコードを更新する1分27秒178をたたき出し文句なしのポールポジションを獲得した。2番手に水野、野左根も1分27秒台に入れ3番手と、好調な3人がフロントロウに並ぶ結果となった。高橋も1分27秒台に入れ意地を見せる。「バイクに乗るには(ケガは)全く問題

ないですね。自己ベストも出せていますし、いいレースをしたいですね」と語るが、バイクを降りると、まだ足を引きずっている姿は痛々しい。本人は大丈夫と言うが、今回も痛みと戦いながらの耐えるレースとなりそうだ。

5番手にカワサキのエース渡辺一馬、6番手にヨシムラの加賀山就臣、7番手に岩戸亮介と1分28秒台で続き、8番手に前田恵助、9番手に秋吉耕佑、10番手に渡辺一樹というQ2となった。渡辺一樹は、最後のアタック中にダブルヘアピンで転倒。セクター1、セクター2と自己ベストをマークしており、Q1では、1分28秒079を記録していただけに1分27秒台に入っていただろう。

今回もトップ争いは中須賀、野左根のYAMAHA FACTORY RACING TEAMの2台、そして水野と高橋のHondaの2台が繰り広げることになりそうだ。「今回は前戦のリベンジをしたい」と強気の水野が、百戦錬磨の中須賀に対し、どんなバトルを仕掛けていくか!? 水野には絶対に負けたくない野左根も2年振りの優勝を実現したいところだ。タイトル争いの流れを引き寄せたい中須賀、意地を見せたい高橋。

天気予報には雨マークもあり、ウェットコンディションになれば、違う展開があるかもしれない。それぞれの思惑が交錯するJSB1000クラスの決勝は、13時35分スタート予定!

**JSB 1000**  
All Japan Road Race Championship



**ポールポジション: R 1'27.178**  
**#1 中須賀 克行**  
**YAMAHA FACTORY RACING TEAM**

『今シーズンに入ってから、さらに上を目指すために、いろいろバイクのバランスを変えてきたのですが、岡山では、それが合わず、従来の仕様に戻す方向にきています。公開テストから水野選手や野左根選手が非常に速く、アベレージタイムでもボクを含めた3人が接近していたので、ポールポジションも、このメンバーで争うことになると思っていました。レースウィーク初日もブッシュしていましたがトップにはなれませんでした。金曜日は雨上がりで路面のグリップが悪かったのですが、土曜日は少し回復していたのでリズムよく走ることができましたしポールポジションを獲れてよかったと思います。岡山は相性のいいコースですし、これまでは独走で勝っていましたが、今回は違うレース展開になりそうですね。もちろん最終的に勝てるようにレースメイクをしたいと思っています』

**J-GP2**  
All Japan Road Race Championship  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW



作本輝介

J-GP2クラスの公式予選もセッションの終盤にかけて上位陣の激しいタイムアタックが見られた。当初モニターのトップに立った尾野弘樹がマークしたのは1分32秒249。それに作本輝介、榎戸育寛、岩崎哲朗、名越哲平らも32秒台で続いていた。

セッション中盤から終盤にかけて、各上位陣ライダーがピットに戻り最終アタックにむけて準備の後、再びアタックを開始。まずは名越が32秒154までタイムを削

**決勝正式結果(上位20位)**

●8月31日(土) 予選・決勝 天候/曇 路面/ドライ 出走29台

Pos	No	Cls.	Rider	Team	RaceTime
1	20	I	1 笠井 悠太	TEAM TEC.2	21'28.759
2	33	I	2 永島 潤太郎	チームライフ・ドリーム北九州	21'29.468
3	49	N	1 松岡 玲	キジマKISSレーシングチーム	21'36.239
4	2	I	3 藤原 大翔	SHIN RIDING SERVICE & SUNOCO	21'36.311
5	55	I	4 中沢 寿寛	i-FACTORY&Mガレージ	21'36.398
6	24	N	2 平松 太陽	TEAM TEC.2	21'36.552
7	35	N	3 佐々木 将旭	Team KYOEI GO&FUN	21'37.056
8	373	N	4 南 博之	Team373 J-TRIP	21'38.246
9	22	N	5 土岩 直人	SHIN RIDING SERVICE & SUNOCO	21'38.405
10	6	I	5 谷本音虹郎	speedheart DOGFIGHTER YAMAHA	21'38.960
11	38	N	6 本郷 雅也	GO&FUN Racing Team KYOEI	21'38.966
12	54	N	7 片山 千彩都	GOSHI Racing	21'39.330
13	81	I	6 船田 俊希	BATTLE FACTORY+FLEX	21'39.807
14	27	I	7 石井 千優	TONERT千葉北ポカバイクス+N-PLAN	21'40.051
15	11	I	8 豊島 智博	RS-TOH	21'56.716
16	26	N	8 田中 敬秀	7CエムホームCAC+セクレテル=NTR	21'57.177
17	5	N	9 下坊 智之	Team ABEEN&速心&EIGHT&スナイパー	22'05.011
18	3	N	10 後藤 恵治	YSS☆ANDORACINGマールキュール	22'05.852
19	44	N	11 吉賀 大造	TEAM TEC.2 & Burning D A	22'06.054
20	14	N	12 本村 勤悟	絶頂☆福川商会☆Shenplus	22'08.039

区分:I=インター、N=ナショナル

ベストラップ: #9 森 俊也 1'45.926 7/7 125.850km/h

(ナショナルクラス表彰台/左から平松太陽、松岡玲、佐々木将旭)



**JP 250** Presented by **DUNLOP**

**激戦を制した笠井悠太(INT) 松岡玲(NAT)が優勝!**

2019 MFJカップJP250選手権 第4戦岡山国際  
の決勝レースは、ポールポジションから好スタートを決めた笠井悠太に2番手の谷本音虹郎と3番手の永島潤太郎が、オープニングラップから接近戦を繰り広げる展開が始まった。

そこから抜け出した笠井と永島は、12周のレース序盤から後続を引き離してトップ争いを繰り広げていく。時にトップを入れ替えながら最終ラップまで激しく続いた両者のバトルは、最後の攻防で逃げ切った笠井が真っ先にチェッカーを受け、総合およびインターで優勝を遂げた。

トップ争いからは離されたものの、その後継でもレース中終始6~7台が入り乱れてのバトルを繰り広げていた3位争いは、松岡玲が先頭でチェッカー、総合3位と同時にナショナルのウィナーとなった。

(インタークラス表彰台/左から永島潤太郎、笠井悠太、藤原大翔)



**作本輝介がポールポジションを獲得!**

「タイムはまだ伸ばせると思う。理想は最初から逃げて独走」



**ポールポジション: 1'31.581**  
**#4 作本輝介**  
**Team 高武 RSC**

『公開テストは、うまく進められていませんでした。レースウィーク初日の金曜日にも1本目はハーフウェイト、2本目はドライで走ることができたのですが、コンディションに合わせきれないでいました。そんな状態で迎えた公式予選だったので、ちょっと心配していたのですが、セッション後半で少しずついい方向に進んだのでポールポジションを獲得できました。タイム的には納得できるものではなかったのですが、決勝日朝のウォームアップ走行でセットを確認して、その仕上がりが次第でレースをどう戦おうか考えようと思っています』

てトップに立つと、作本は31秒581と31秒台に入れてトップに浮上。名越も31秒780と31秒台をマークするが上回ることはできず2番手。榎戸も32秒100とタイムアップし、今シーズンここまで3大会4レースで優勝を分け合っている3人が上位を占めることになった。

小谷斗斗がセッション最後のアタックで32秒184をマークし4番手に上がり、尾野、岩崎と続きセカンドロウに並ぶ結果となった。

**ST 600**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW



## 岡本裕生が今季3度目のポールポジション! 「しっかり差を付けて自分らしいレースで勝ちたい!」



岡本裕生

決勝グリッド40台に対し参加台数が48台のため、A、B組分け2回の公式予選で、8台の予選落ちが発生するST600クラス。A組1回目では、セッション序盤から岡本裕生が1分32秒台に入れてトップ立ち、最終的には32秒581までタイムアップして走行を終えた。2番手には33秒089で長尾健吾、33秒635でSTEFAN HILLの結果。B組では國峰琢磨が序盤に1分32秒816でトップ、2番手には同じチームの小山知良が33秒077で続き、この2台が1-2のまま1回目のセッションを終えた。33秒579の奥田教介が3番手。

午後にかけて日差しが強くなった2回目の予選セッションでは、タイヤ制限に加え厳しい暑さもあり、上位陣でタイムアップするライダーはほとんどおらず、A組は岡本が33秒9でトップ、B組では奥田が33秒472とタイムを更新して2回目のB組トップでセッションを終えた。

総合では岡本が今季3度目のポールポジション、2番手にB組1回目トップの國峰、3番手に同じく2番手だった小山の日本郵便 HondaDream勢が占めフロントロウを構成することとなった。



**ポールポジション: 1'32.581**  
**#1 岡本 裕生**  
**51ガレージニトロレーシング**

『岡山は苦手意識があって、公開テストでも久しぶりで走ったんですが、いい流れで来ていたので、公式予選ではコースレコードを更新したかったですね。ポールポジションを獲得することはできたのですが、少しレコードには届かなかったのが悔しいところで。ただ、アベレージタイムは自己ベスト付近で走ることができているので決勝では独走して、レコード更新を狙って行きたいですね』

**J-GP3**  
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP  
QUALIFYING PRACTICE  
REPORT & INTERVIEW

## 長谷川聖、ホームコースで初のポールポジション!! 「自分のレースをすれば結果はついてくるはず!」



長谷川聖

朝から晴れ渡った岡山国際サーキット。ST600クラス1回目予選の後に始まったJ-GP3クラスの公式予選。セッション序盤から高杉奈緒子が1分36秒838を叩き出し、トップに付ける。2番手にはベテランの安村武志、今年ステップアップした成田彬人、村瀬健琉らが37秒台で続く。しかし、事前テスト、金曜日の練習走行から好調をキープする長谷川聖が36秒699をマークしてトップに立つとセッションも終盤にかけて各車ともアタックを続ける。

気温の上昇につれて路面温度も上がる中、終盤に大きくタイムを上げるライダーはおらず、長谷川が序盤のタイムのまま、ホームコースで初めてとなるポールポジションを決めた。長谷川は今季3度目のポールポジション。

2番手は高杉、3番手には終盤のアタックで37秒348をマークした村瀬、37秒515で安村、成田37秒791、こちらも終盤に上げた福嶋佑斗が38秒150で6番手に続き、ここまでがセカンドロウとなった。



**ポールポジション: 1'36.699**  
**#36 長谷川 聖**  
**CLUBY's**

『岡山はホームコースなので、あまり練習はできていなかったのですが自信がありました。公開テストでは全セッショントップタイムで、レースウィークに入っても、金曜日の1本目はウエットコンディションでしたが、そこでもトップでしたし2本目もトップだったので、公式予選ではコースレコードを狙って行こうと思っていました。実際はタイミングも合わず、レコード更新はできなかったのですが、ポールポジションが獲れたのでよかったです。マシンも問題ないですし、チャンピオンを獲るためにも、決勝は、しっかり勝てるように頑張ります』

